

「三浦市水道ビジョン(経営戦略)令和7年度中間見直し(案)について」  
のパブリックコメントの結果公表

- 1 意見等の募集期間 令和8年2月5日(木)から  
令和8年3月6日(金)まで
- 2 意見等の受付件数 1人
- 3 意見等の概要とそれに対する市の考え方

番号	意見等の概要	市の考え方
1	P16 残留塩素濃度目標 全量受け入れの事情はわかりませんが、なぜ横須賀市はその基準なのか？中継点で調整は困難なのか？表現に工夫や検討の結果があると良いし、供給点ではなく蛇口ベースなら、0.6ではなく、0.5などで良いのではないか？	記載のとおり、残留塩素濃度について、水道法では0.1mg/l以上と定められていて、上限値は定められていません。残留塩素濃度は、地域によって差があります。特に横須賀市からの中継点に近いエリアでは滞留時間が短く、濃度が低下しにくい傾向があります。中継点での調整は、異常の無い水質に対してコストをかけて調整することになります。0.5mg/lを独自でコントロールすることが困難であるため目標値としてはある程度の余裕分をみて0.6mg/lとすることが適切と考えます。
2	P22 表3-8 三浦市立産声中学校とはなにか？	記載誤りです。三浦市立初声中学校に修正します。
3	P21 災害対策 三浦半島は多くの断層が通っているなか、武山や北武断層を運ばれているため、市内までのロジ破綻が想定されるため、生活排水用に地下水取水等もバックアップが必要ではないか？	水道事業としては、水道法に定められた水質基準に基づき、飲料水を供給させていただいております。市内までの水の供給が断たれた際には、市内にある配水池や市内4か所に設定されている100m <sup>3</sup> 型貯水槽により、当面は飲料水の供給を行います。地下水取水については、別箇所記載のとおり、コスト面の観点から全量受水へと切り替えており、バックアップを考慮してコストをかけることは逆に利用者に負担をかけてしまうと考えています。一方で、災害時の飲料供給は水

		道事業の責任でもあるため、災害対策として現在目指していることは、100%には至っていない耐震管率等の向上により、施設の強化を早急に行う目標に基づいて計画を策定しています。
4	P21 災害対策 富士山火山灰対策について君津市は下水対策も検討されているが、想定がない点は今後の課題に思います。	富士山火山灰対策については、重要なものと考えています。本市においては、相模川水系の全量受水となっていて、火山の噴火による降灰対策については神奈川県内広域水道企業団等と共有をしていますが、非常用の発電設備については、計画的に進めたいと考えています。今後の動向を注視してまいります。
5	P27 県営水道の料金の値上げに対応した表現になっているのか？	県営水道の統合を目標と掲げていますが、当ビジョン期間中においては、市運営の水道事業についての計画であり県営水道の値上げには対応しておりません。
6	P27 地下水水源は活用していたのにコスト効率で集約した背景があるなか、水源に恵まれていないとだけ記述するのはミスリードを生むのではないか？	地下水源の停止は、水質の悪化と、給水量の減少により受水量に余裕が出たことも要因です。水源に恵まれていないという記述は、受水の主な供給源である宮ヶ瀬から距離があるところをお伝えしたかったところであると意図が伝わらない表現であると考え、記述を修正します。
7	P34 更新基準 長寿命であれば全て良いわけではなく、価格性能の上昇や保守費用逓減が進むものもあると思います。UPS, ポンプ、発電機など、更新に当たっては性能進化や保守コスト低減が想定されるものは長くしなくても思われます。また、耐用年数は実績値を見ていることですが当地固有の湿気、塩害にも考慮が必要なものもあるかと思えます。	更新基準につきましては、現状でのライフサイクルコストの優位性を踏まえて設定しています。今後、更新基準を見直す際には、ランニングコストの低減も踏まえて検討します。また、主要な設備は建屋内やケース内に設置されており、塩害等による耐用年数への影響はありません。実際の毎年の更新の際には、性能進化や保守コスト低減等の要素を考慮した予算編成を行ってまいります。
8	P65 表 6-20 ① 残留塩素濃度の管理 平均残留塩素濃度を蛇口レベル	いただいたご意見のとおり、蛇口レベルでの実態数値に基づいて設定しています。

	と貯水場で異なるので実態数値に近づけてみてはいかがでしょうか	
9	P65 表 6-20 ④災害時の飲料水の確保 定期点検時実施有無などで評価をしてはどうでしょうか	定期点検については、当然のことと考えており、評価基準としては設定していません。災害対策としては、非常時対応容量の確保が第一と考えております。
10	P65 表 6-20 ⑥漏水調査と有収率の確保 有収率が下がっているのので、具体的な対策を目標設定に取り入れるか経年による悪化で目標にズレが出ているのであれば、数値の仕切り直しが必要ではないか	有収率につきましても、様々な施策に取り組んでいますが、改善には至っていない状況にあります。 現状ではAIなどの新技術はまだ取り入れておらず、また、今回はビジョンの中間見直しであることを踏まえ、有収率の目標値は現行ビジョンを踏襲するものとしております。次期ビジョン検討の際には、有収率改善の方策を再検討し、新たな目標を設定します。
11	全体に上水道についての内容なので、タイトルの変更を検討したほうが良いかと感じました。	上水道事業に関するビジョンであるため、タイトルに関しては変更を考えていません。

#### 4 素案の修正を行った部分とその理由

原案	変更後	理由
P22 表 3-8 三浦市立産声中学校	三浦市立初声中学校	記載誤りのため
P27 本文中下から3行目 本市水道事業は三浦半島の先端に位置し、水源に恵まれていないという地理的条件などから、割高な水道料金となっています。	本市水道事業は三浦半島の先端に位置し、水源から遠く距離があるという地理的条件などから、割高な水道料金となっています。	意図が伝わらない表現であったため。

※ お問い合わせ先 三浦市役所上下水道部営業課

TEL 046-882-1111 内線381

FAX 046-881-6307

電子メール [suidou0101@city.miura.kanagawa.jp](mailto:suidou0101@city.miura.kanagawa.jp)